

【講演要旨】 携帯安全教室 令和2（2020）年3月27日（金） 長沼高校体育館

- スマートフォンは、手軽に扱える分、トラブルのもとになりやすい。
- インターネットは、世界中の人や情報にアクセスできるが、普段は限られた集団の中で使用することが多く、「世界とつながっている」感覚を忘れがちである。

【 SNSで気をつけたいこと 】

- 事件に巻き込まれる可能性
「会ったことがない」「顔が見えない」相手とのやりとりを繰り返すうちに、安心してしまう。
しかし、その相手は「実在するかどうかも分からない」。
- 「写真を送る」＝「写真のコピーを作る」こと
ネット上にアップされたデータは、どこまでも、しかもすごいスピードで拡散する。
→ 一度ネット上にアップされた情報を、完全に消すことはほぼ不可能
- 軽はずみな投稿
「友だちにしか公開しないから大丈夫」…それは自分の設定でしかない。他人の手に渡れば拡散を止めることはできない。
信頼性の低い情報の掲載・転載は、他人に迷惑をかけることになる。
個人が特定されれば、過去の現状をチェックされ「就職」「進学」「結婚」などに悪影響が出ることがある。
インターネットの世界は完全な匿名の世界ではない。アクセスログを追跡されれば必ずバレる。だから、無責任な行動を取ってはいけない。

【 コミュニケーションアプリで気をつけたいこと 】

- 言葉の受け取り方は人によって異なる。
特に新生活が始まる時には、相手に対する理解が深まっていないため、トラブルを生みやすい。
「このメッセージを受け取った相手はどう思うか」を考え、相手に対する思いやりを忘れずに。
- 相手が見えないため、やりとりがどれほど相手を追い詰めているか分からずエスカレートしていく傾向がある。
人を死に追いやる可能性があるという自覚を持って SNS を利用してほしい。
万一「加害者」扱いされてしまうと、あらゆる個人情報ほぼ全てがインターネット上にさらされることがある。
- ふだんから、生身のコミュニケーションを通して、言葉遣いへの意識を高めてほしい。

【 スマホなどでの時間の使い方 】

- 睡眠不足で生活リズムが崩れようが、交通事故に遭いそうになるのが、「スマホを手放せない」のが子どもたちのリアルな実態。
- 生活の中で、自分でメリハリをつける、「自分で管理できる」力をつける。

【 フィルタリングを活用して危険から身を守る 】

- 18歳未満が利用する端末には、法律でフィルタリング機能が義務づけられている。ルールは「自由を守る」ために存在するものであり、スマホを使いたければルールを守る。
- スマホを「買う」のではなく、「保護者が契約してくれたものを借りて使っている」のが正しい。だから、決まりを守って正しく使うのが当然である。
- 保護者の皆さまへ
フィルタリングはインターネット上の「有害な情報」「悪質な情報」から子どもを守るための「大人の責任」である。時間の管理（使用上限の設定）、歩きスマホ防止機能など、様々な機能があるので、最適な方法を選んでほしい。

【 まとめ 】

- 全てのことは「自分にも起こりうる可能性がある」。
- トラブルに遭ったら、1人で悩まず、まずは保護者に相談してほしい。
トラブルは、日常生活をしっかり送ること、普通に大人の話をしっかり聞くことができれば軽減できる。